

子どもの貧困を考えるー地域福祉推進を考えるセミナー開催

地域生活施設協議会・更生福祉施設協議会の共催による第15回目となる本セミナーは「子どもの貧困に向き合ってー地域社会のあり方を考えるー」をテーマに、去る11月18日に開催しました。

基調報告で（N）フリースペースたまりば理事長の西野博之さんは、創設25周年を迎えたたまりばの活動から、生きづらさを抱える子ども達の様子や、子どものSO Sをキャッチできる大人になるための視点と環境づくりについて話しました。

引き続き、子ども食堂に焦点をあて、子どもの未来サポートオフィス代表・横浜こども食堂ネットワーク準備会の米田佐知子さんが「子ども食堂の取り組みから見えてきたこと」と題し、子ども食堂の広がりや背景や横浜市内の状況、子ども食堂を始める・運営する際に考えておきたいこと等を語った後、平塚市で「よこちこども食堂」を運営する佐藤貴子さんは、立ち上げのきっかけや、食材調達や運営の工夫等の実践を報告しました。

遊びや食事を通してふとつらさを口にする「ながら相談」できるのが居場所の力（西野さん）、食人を呼ぶ（佐藤さん）、そして、子ども食堂でできた縁を日常の生活にどう結び付けていくか（米田さん）等の話を、参加した267名の民生委員児童委員、福祉施設、社協、行政、ボランティアなど地域支援に携わる方々が熱心に聞き入っていました。

次回のセミナーは、「アルコール依存症の回復への道のり」をテーマに1月19日に開催します。

（社会福祉施設・団体担当）

参加者の声（アンケートより抜粋）

- 子どもを制度に合わせる支援ではなく子どもに制度を寄せることが大切。
- 「支援する気満々の大人に対して子どもは助けを求めない」という言葉、本当にその通りだと思う。子ども達は口には出さないが、大人と同じくらい色々な考え方があり、本当はこうしたいという思いに対し寄添いながら支援することが大切だと思った。
- 子どもたちがつながりを築くことは貧困の経路を断つ手段であるということが分かった。



第19回介護支援専門員実務研修受講試験 合格状況

10月2日に、第19回介護支援専門員実務研修受講試験を県内4カ所（慶応義塾大学他）の会場で実施しました。

受験者数は7124人、合格者数は1036人で、合格率は14.5%と昨年度より3.3ポイント下回る結果となりました。

合格者の72%を介護福祉士が占め、社会福祉士や他の福祉・介護分野を合わせると福祉職が8割を超える結果となります。

合格者の平均年齢は43.2歳で、

男性は30歳代、女性は40歳代の割合が高くなっています。

なお、介護保険法の一部改正により、現行の受験資格の経過措置期間は平成29年度の試験までです。

合格者が受講する実務研修は、今回より受講時間数が87時間となり、内容も新たな科目が加えられ、演習時間も増えるなど一層充実した内容になりました。研修は本会、横浜社協並びに総合健康推進財団で実施の予定です。

（福祉研修センター）

平成28年度介護支援専門員実務研修受講試験 職種（資格）別合格状況

職種	合格者数（人）		比率（%）	
	28年度	27年度	28年度	27年度
介護福祉士	746	(945)	72.0	(69.9)
看護師	61	(98)	5.9	(7.2)
社会福祉士	61	(75)	5.9	(5.6)
介護等業務従事者	32	(39)	3.0	(2.9)
理学療法士	32	(33)	3.0	(2.4)
相談援助業務従事者	29	(43)	2.8	(3.2)
作業療法士	15	(25)	1.5	(1.9)
保健師	10	(10)	1.0	(0.8)
柔道整復師	8	(10)	0.8	(0.7)
栄養士（含む管理栄養士）	8	(11)	0.8	(0.8)
あん摩マッサージ指圧師	7	(15)	0.7	(1.1)
薬剤師	7	(12)	0.7	(0.9)
歯科衛生士	6	(10)	0.5	(0.7)
はり師	3	(4)	0.3	(0.3)
精神保健福祉士	3	(6)	0.3	(0.4)
歯科医師	2	(8)	0.2	(0.6)
准看護師	2	(4)	0.2	(0.3)
助産師	2	(1)	0.2	(0.1)
言語聴覚士	2	(1)	0.2	(0.1)
医師	0	(3)	0	(0.2)
計	1,036	(1,353)	100.0	100.0

※医師、視能訓練士、義肢装具士、きゅう師の合格者はいませんでした。